

直売所甲子園2013決勝大会/優勝者決定

1. 直売所甲子園

直売所甲子園とは2009年より隔年催されているイベントであり、今年は3回目となる。開催の目的は、日本全国に現在約2万3千か所ある直売施設では、購買だけでなく市民同士の交流がおこなわれ、農産物をメディアとした農業・農村へ理解が進み、食への興味が促されています。直売所甲子園2013では、直売所の成果をさらに前進させるべく、直売所の地域における役割と機能を専門家による審査と決勝大会での活動発表を通じて明らかにします。

直売所へ出荷する生産者と運営者が協働し、「日本一」をめざす過程から、直売所の存在意義と未来への方向を見出し、地域の農家・農村・農業に活力を与えることで、日本農業の発展に貢献できるものと考えております。

2. 直売所甲子園2013予選会

本年開催された直売所甲子園2013には、全国から49直売所のエントリーがあり、今年は各地域の12大学、35名の学生による第一次審査が約1ヶ月かけて行われ、さらに専門家による現地踏査・第二次審査を経て、決勝大会に出場する16の直売所が選ばれました。

3. 直売所甲子園2013決勝大会 11月12日、13日

決勝大会は東京・中野サンプラザで行われ、16の直売所がそれぞれの取り組みを12分間に要約し、プレゼンテーションをします。その後、審査委員の質問を受け、評価点がつけられます。長崎の音琴美希選手による宣誓により2日間にわたる大会が始まります。プレゼンターには、揃いのハッピーや幟、さらにはゆるキャラまで揃えた応援団が駆けつけ、350人入る会場は満席、熱気に包まれました。第1回からまだ4年ですが、各直売所の発表は驚くほどレベルが高く、安全・安心を保証するシステム、新鮮さに裏打ちされた品質の高さ、生産現場と結びついた販売方法など、スーパーや量販店の遙か先を行っている、と思われ取り組みも数多くありました。

4. 結果と褒賞

優勝は、茨城県から出場したみずほの村市場でした。あらゆる農業問題は流通問題に収斂され、それを解決するには直売という方法が一番優れているという視点、また農業を産業とするためには経営者を直売所というステージで育てるという理念が高く評価されました。みずほの村市場を代表して高橋広樹部長に櫻庭英悦農林水産審議官から農林水産大臣賞、吉田修実行委員長より優勝旗、協賛企業の㈱スズカコーポレーション増田和生専務よりスズカ杯、そして全国直売所研究会長谷川久夫会長より副賞100万円が授与されました。

準優勝に当たる優秀賞は、内子フレッシュパークから、伊豆・村の駅、おおむら夢ファームシュシュ、田布施交流館、あいとう直売館の5直売所が選ばれました。それぞれ、生産者の所得向上を目的に、多品目通年出荷、6次産業化などに早くから取り組み、また、消費者の信頼を得るための生産履歴の公開、イベントによる交流活動、出荷者の組織化などを、効果的な仕組みで実践しています。各直売所には優秀賞の団旗、表彰状、副賞10万円が授与されました。

【審査委員】

委員長 鎌田定宗

委員 新開玉子/乾京子/白田典子/青山浩子/納口るり子

【決勝大会出場直売所】◎みずほの村市場(茨城) ○内子フレッシュパークからり特産物直売所(愛媛)○伊豆・村の駅(静岡)○おおむら夢ファームシュシュ新鮮組(長崎) ○田布施地域交流館(山口)○あいとう直売館(滋賀)三連水車の里あさくら(福岡) JA福井市アグリランド喜ね舎愛菜館(福井)JAあきたファーマーズマーケットでこぼん(熊本)道の駅かまえきり蒲江館(大分)産直あぐり(山形)道の駅とわだ(青森)恵庭農畜産物直売所かのな(北海道)びわこだいなか愛菜館(滋賀)道の駅きよかわ(大分)とんとん市場新発田店(新潟) ◎優勝 ○優秀賞5点



審査講評を聞く出場者たち



農林水産大臣賞を授与されるみずほの村市場代表

主催 全国直売所研究会/直売所甲子園実行委員会 実行委員長 吉田修 (モクモク手づくりファーム)

事務局 (有)ベネット 〒164-0001東京都中野区中野5-32-4 電話03-5913-2627 <http://chokubaiken.org/>